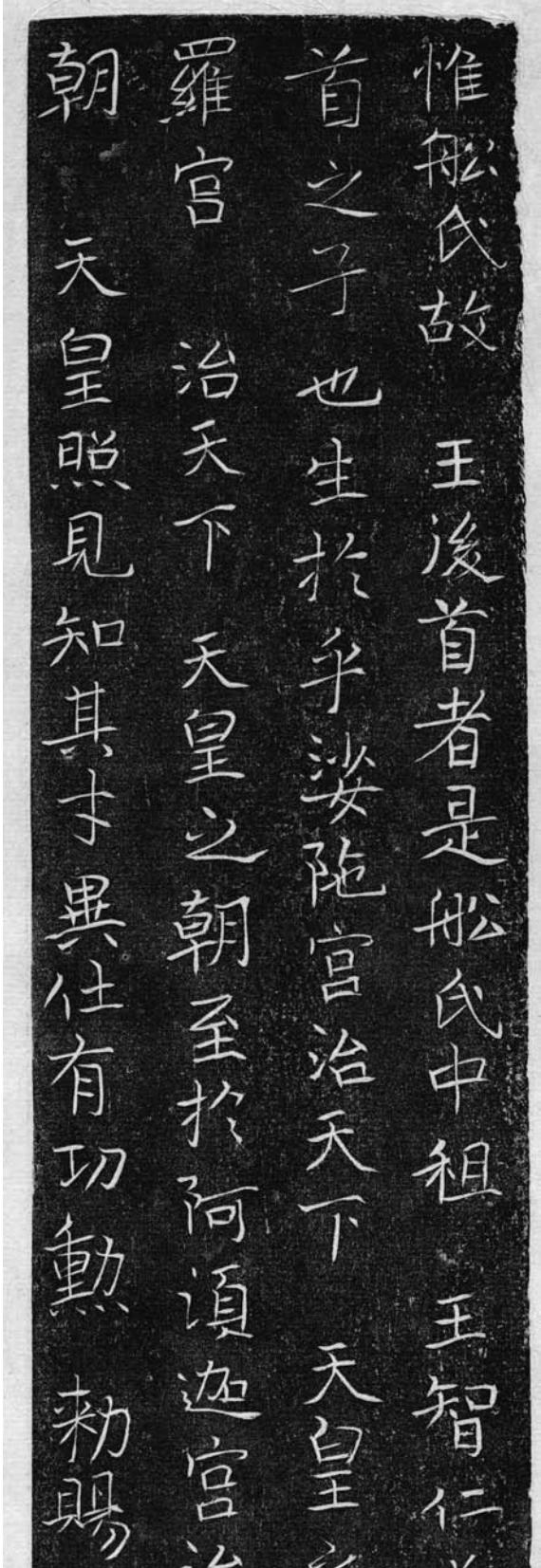
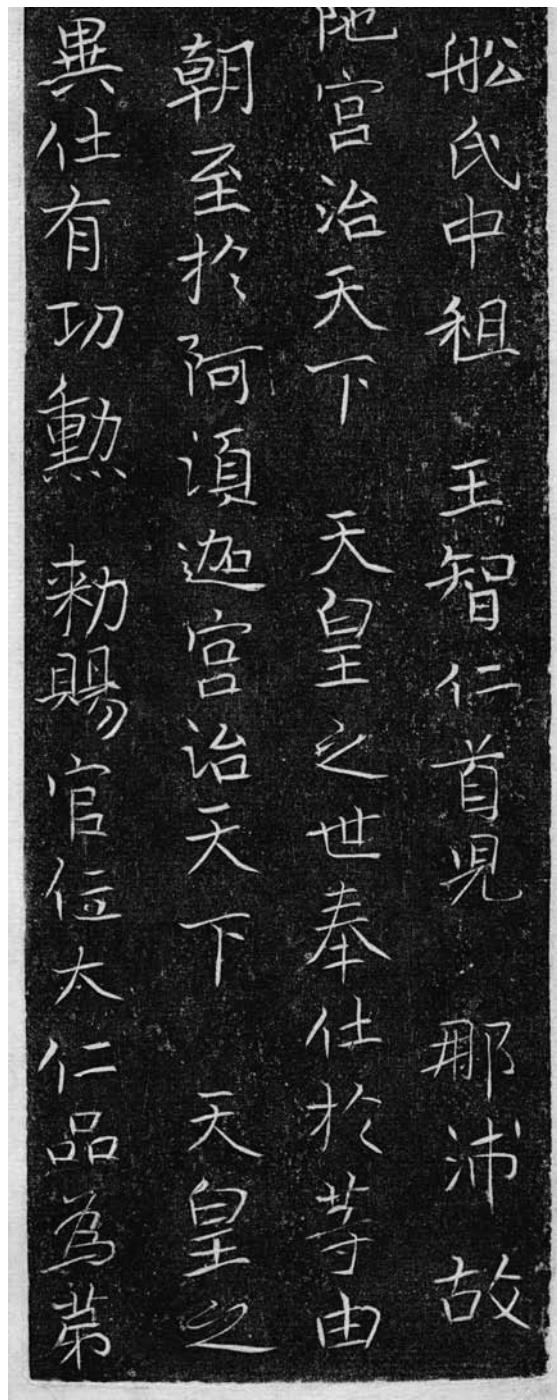


日本の金石文⑩

「船氏王後墓誌銘」
フナウジオウ ゴ ポ シメイ
飛鳥時代 (668年)

主画版①表面



図版③

高湛墓誌

船王後墓誌



図版②



船氏王後墓誌銘（船王後墓誌銘、船首王後墓誌銘）とも称される。船王後という人物の事績をしるした墓誌銘である。戊辰年（668年）の紀年があり、旧くから日本最古の墓誌銘とされている。縦30cm、横6cm余りの薄い銅板である。表裏両面に160余字が刻されてい

る。楷書体でやや小振りの文字である。運筆は伸びやかで、行書の様な柔らかさを示している。横画や、縦画に抑揚があり、僅かであるが褚遂良的な用筆を示している。多くの著作にただ漠然と六朝風の書体と評されているが、試みに六朝碑刻の中からよく似た東魏時

代の「高湛墓誌銘」（539年）を取り上げ比較した（図版③）。100年ほどの時間差があるが、筆勢や書風、文字の結構に似た部分を見ることが出来る。

この墓誌銘は国宝に指定され、三井記念美術館の所蔵である。伝来する拓本は極めて珍しい。図版に示したのは、

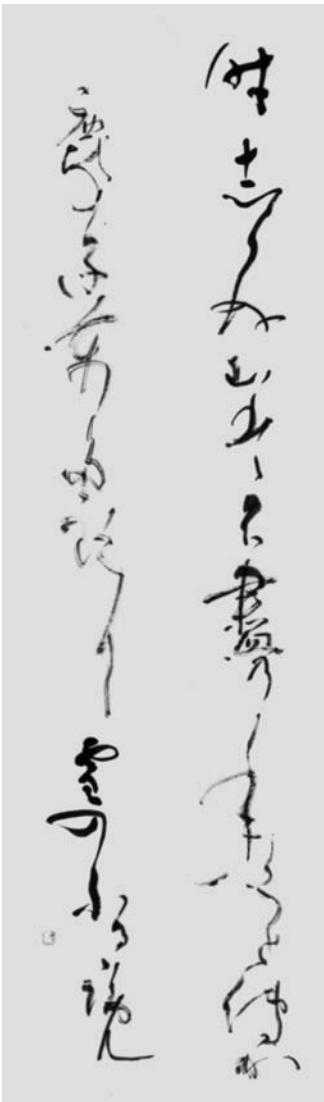
旧蔵者である三井高堅の「三井家聽水閣藏金」の鑑藏印（図版②）のある見事な精拓本である。

伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院 平成の群像 (2014)



島 孝子



恩師高橋松延先生がご逝去されて、4年が過ぎた。ちょうど2年前の11月に遺墨展を行ったのは、ついこの間のようだ。「三回忌にちなんでぜひ開催してほしい」との、松延先生の弟さまからの願いを受け、地元吉祥寺美術館で開催することができた。恩地先生、辻元先生はじめ玉松会石井先生、山藤先生など多くの先生方にご指導をいただき、温かく見守ってくださる中で、善き友である見越雪枝さんと全身全霊で力を合わせ、無事に実施することができた。様々な貴重な体験は何ものにも変えがたいものばかりで、師は私たちに大きな大きな宝も

のを残して下さったと、今改めて渴仰と感謝の思いで一杯になる。

私は小学3年生から40年間、松延先生に育てていただいた。第一の母だ。子供の頃は「書道ブーム」で、お稽古場は順番待ちの子供たちがあふれていた。私が短大に入ると、子供の添削のアルバイトまでさせて下さるようになつた。それだけに遺墨展では、書道界はもちろんのこと、先生を偲んで地元の多くの方がお越し下さり、6日間の会期中、人が跡絶えることなく賑わい、500人以上の方が足を運んで下さった。本当に有難かった。会場には2×8作品から小

作品まで34点、歯切れのよい凍として且つ流麗な作品が並ぶ。そしてメインには第40回書道芸術院蘭亭賞(62才)、第43回毎日書道展会員賞(66才)、の各々2×8大作を陳列。師の息づかいが聞こえてきそうな魂が宿った圧巻の作品は、その表情が日々変化して見えるのだ。時には凜として厳しく、時には温かいぬくもりを……師と対話をしているようだ。そんな中で気づかされた。それは私自身の書に向き合う姿勢の甘さ、覚悟の足りなさである。師の声を聞かされた思いで、胸が熱くなった。そして「何事があつてもフレキシブルな一貫した姿勢で、命をかけて覚悟をもって書に向かう生き方をしていくこう」と心に誓った。「先生がお元気な時になぜ気づけなかつたのか」と、心から申し訳けなく思った。しかし師がいなくなつて初めてがま苦しみ、必死になつて少しでも学ばうと努力できるようになつた今だからこそ、気づかせてもらえたのかもしれない。そう捉えると、心が明るくなつてくる。

私は日々のお弟子さ

書のひろば

理事長
辻元大雲

書道芸術院秋季展・推薦作家展開催



新装なった秋季展会場

2月の本展は文し秋の企画展として
継続開催している「書道藝術院秋季展」
が会場を新装なった「セントラルミュー
ジアム銀座」にて9月30日から10月5
日まで、財団役員・審査会員選抜作家・
審査会員候補公募入賞者50名を含め160
名余の出品を得て盛大に開催された。
同時に67回春華賞選考にて最終ノミ
ネートされた5名の推薦作家展もアーテ
トサロン毎日にて同会期で行われた。

初日である30日には秋季菊花賞、俊英賞の表彰式および推薦作家、秋季菊花賞受賞者を中心とする作品研究会がセントラル（5階）の階下3階ホールにて200名を超す参加者のものと盛況の裡に行われた。夕刻4時からは多数のご来賓をお招きして2階大ホールにて賑やかに祝賀会が開催された。前日29日にいに盛り上がった。

第23回国際高校生選抜書展
書の甲子園審査終了

10月2日(5日)、石飛博光実行委員長のもと海外からの出品を含め過去最大の173点の応募があった「書の甲子園審査」が大阪毎日新聞社にて行われ、文

「書道芸術」の名称が一般的で「造形芸術としての書道」の意味合いとすれば商標登録にははじまらないとの審査官の判断に対し、拒絶査定不服審判請求を行った結果、識別標識としての機能を果たしうるとして10月10日付けて登録が認可された。

公益法人として名称を他者に勝手に使用することは避けなければならぬことから行っている。ご理解を頂きたいたい。

新二二一作賞の七
10月22日午後、平成26年度高知県文化賞の発表があり、本院参与会員、前四国支局長、谷脇梅翠先生がご受賞された。永年に亘るオーストリア、ウイーンなどでの書を通じての交流が高く評価されたもので、本院の海外交流事業の一環として助成もさせて頂いているだけに大いに慶賀したい。

にて登録が認可された。
公益法人として名称を他者に勝手に
使用することは避けなければならな
いことから行っている。ご理解を頂き
たい。

価されたもので、本院の海外交流事業の一環として助成もさせて頂いているだけに大いに慶賀したい。

谷脇先生は1984年ウイーン日本人学校長として赴任されてより国際交流の活動をはじめられ、1988年より「国際交流ウイーン書道展」開催、さらにウイーン日本大使館広報文化センターにてワクショップ・書道教室も毎年開催され、本年17回目を6月下旬に迎えられた。

先生のご父君谷脇虎猪様は昭和28年にやはり書道文化（主にかな）の振興の功績により第4回高知県文化賞を受賞されておられる。正に親子2代にわたり快挙であり重ねてお祝い申し上げたい。

「書道芸術」商標登録認可

本院では財団法人認可以来「書道芸術院」競書誌「書道芸術」などの名称を特許庁へ商標登録の申請を「つくば国際特許事務所」を通じて行っており、既に「公益財団法人書道芸術院」および「書道芸術学生版」の名称は登録認

にて登録が認可された。
公益法人として名称を他者に勝手に
使用することは避けなければならな
いことから行っている。ご理解を頂き
たい。

春季4月、秋季9月に実施している
本院発行「書道芸術」昇段級試験が行
われ、上級者向けの3種科目は「漢字
半紙」「かな条幅」「ペン字」を実施。
昨年より応募者が若干減少したが審査
は上級段位ほど厳しく、原級に留まる

「書道芸術」秋季昇段級試験実施



喜びの谷略先生

方も多い。次回に向け普段からの基礎修練を期待したい。

谷脇梅翠本院参与 高知県文化賞
親子二代受賞の快挙

10月22日午後、平成26年度高知県文

漢字 (二)

濱田尚川

篆刻・刻字 (二)

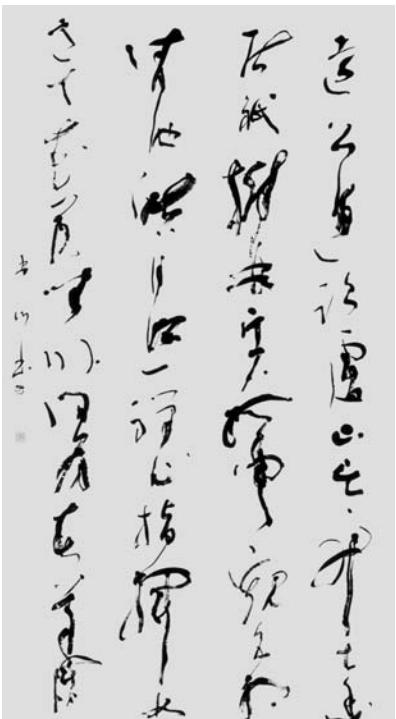
後藤大峰

書の楽しみは臨書にある（天來先生詞）

臨書の大切さに引かれながら蘭亭叙の美しいリズムを教わり、また「定武本では違った深さ意味を求めることが大事だぞ。」とも教わった。更に尚亭臨、菘翁臨を示され味わい深い表現にたまらない魅力を感じた。天來臨の重厚な線にはびっくりした。ここで古典からの学び方の大切さを教わることが出来た。これから、楷書階梯、学書筌蹄を側に毎日の課題として取り組んでいく土台となつた。線質の対照的なお二人の研究のすごさに引きつけられ、導いていただけたことを光栄に思つてゐる。

何といつても現代の書への発展は、天來・尚亭先生の徹底した古典研究・実践によって築かれたのであって、高尚な書の美が生まれたのである。

私の作は動きを大きく、思い切つて運筆したため吊つた線が浅く硬くなり走りすぎたかな。落ちついて線に深さ、温かさを持たせねばならない。調子に乗りすぎないようよく忠告をいただいた。一般に、横線はロマンで広々とした感じを持ち、縦線は意志的で安定期した清らかな感じがする。定した清らかな感じがする。と工夫もしてね。と。



高知県出品品 (40代)

3尺×6尺

濱田尚川書

21世紀の書

—私 の 主 張—



「水のゆくえ」

後藤大峰刻

前回の作品の出品から数年、迷いながら同様の「成語印」を出品し続けて居りました。ある年の書道芸術院展で園地春洋先生が私の作品の前で、師匠が亡くなつた事もあり私が迷つていた事をご存じだった様で「後藤さん、芸術院だからこそ出来る事があると思うけど」と、おっしゃつて頂きました。

それからが私の挑戦（冒険？）でした。芸術院の篆刻と申しますと香川峰雲先生です。存じ上げては居りましたが、あのようないいと何も出来ないと感じたこの作品群のどこに手を伸

ばせば、しがみ付けばヒントが得られるのか？峰雲先生の作品集を隅から隅まで拝見しましたが余りにも自身との差が違いすぎてと言うかハードルが過ぎて真似する事も出来ませんでした。そんな中、何とか創り上げたのが、この作品です。峰雲先生が良く題材として取り上げていらした「水」を拝借して作品に致しました。

この作品で判つたことは題材にする文字は画数の少ないものを採りあげ充分に余白を考える、別な言い方をすると文字は篆刻の常識を捨てて構成を考えないと何も出来ないと感じたこの作品です。

特集：書道芸術院秋季展

本年の秋季展は、昨年までの会場、「東京セントラル美術館」の移転先で、新しくオープンした「セントラルミュージアム銀座」（紙パルプ会館5階）にて開催された。真新しい壁面の明るい会場で、雰囲気も一転した。本院財団役員をはじめ、本年2月に開催された第67回書道芸術院展出品作品より選考された選抜作家109名。審査会員候補から公募作品370点、218人より厳正な審査を経た「秋季菊花賞」6名、「秋季俊英賞」44名の計50名。総計156名の作品が展示された。「秋季菊花賞」は例年10名程度を選考したが、本年は作品内容を厳選し6名となつた。これは、秋季展の入賞が、本展の入賞と同等に審査会員への昇格得点として評価することを重視した結果である。

さらに、「推薦作家展」を竹橋のアートサロン毎日にて開催し、審査会員を

秋季展実行委員長 種 谷 萬 城

会期 平成26年9月30日(火)～10月5日(日)
会場 セントラルミュージアム銀座
アートサロン毎日（推薦作家展会場・毎日新聞社内）

対象とした「書道芸術院春華賞」（従来の峰雲賞を改称）選考最終候補者の

須田清子、現代詩文書部・北嶋善湖、前衛書部・八木熹晃の5名が、一人7

余の壁面に大作発表を行った。両会場にて開催した秋季展は、漢字・書道の5部門を擁する総合団体である書道芸術院を代表する、将来を担う作家の作品発表の場として企画した展覧会で、意欲的な作品が会場に溢れていた。

初日には表彰式、研究会が「銀座フェニックスプラザ3階」にて開催された。研究会は、スクリーンに作品写真を写し、推薦作家・秋季菊花賞作家の作品制作意図発表、各部選考委員の助言、辻元大雲理事長の総括等で白熱し、充実した会となつた。その後、2階の「フェニックスホール」で、ご来賓をお招きした小宴を行つた。

会期中の参觀者は、「アートサロン毎日」が422名。「セントラルミュージアム銀座」が1175名を数えた。

書道芸術院秋季展

審査会員選抜作品
審査会員候補公募作品



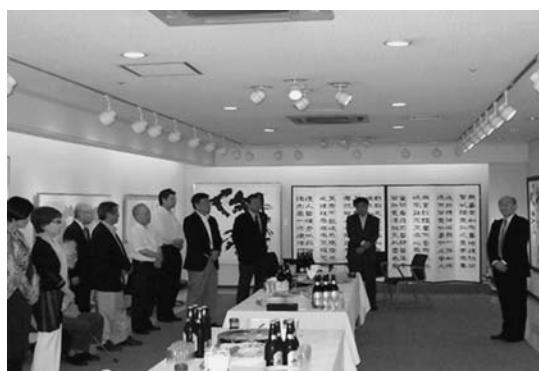
表彰式で理事長あいさつ

書道芸術院秋季展〈審査会員候補公募状況〉

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	秋季俊英賞	落選
漢字	142	84	2	17	65
かな	20	18	1	3	14
現代詩文書	65	41	0	10	31
前衛書	141	73	3	13	57
篆刻・刻字	2	2	0	1	1
合計	370	218	6	44	168



大勢で賑わう懇親会



大盛況の推薦作家展

〈併催〉 推 薦 作 家 展

《小 竹 正 高 》



〈三界無法〉

180×60cm×11

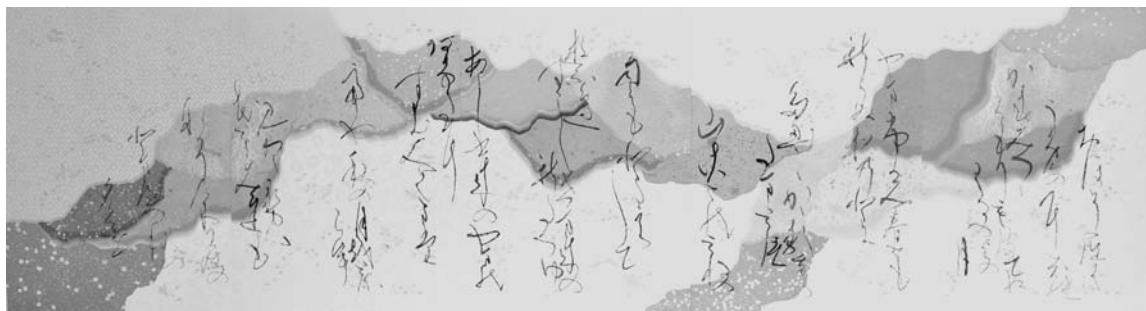
《佐 藤 莱 扇 》



〈菜根譚〉

137×35cm×8

《須田清子》



〈大空は〉

50×180cm

《北嶋菁湖》



〈長谷川櫻の句〉

140×280cm

《八木熹晃》



〈豊饒〉

120×240cm

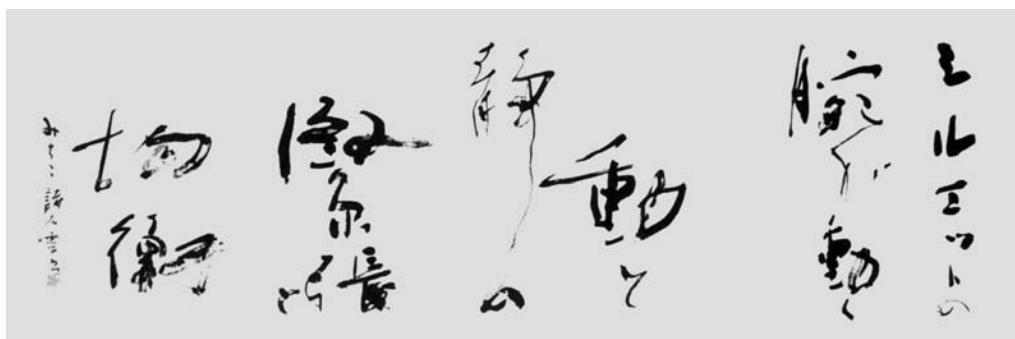
書道芸術院役員作品

（雲はいま）



(公財) 理事長・常任総務 辻 元 大 雲 66×143.5cm

〈シルエットの腕〉



(公財) 常務理事・常任総務 小竹石雲 60×180cm

〈もの言はぬ〉



(公財) 常務理事・常任総務 下谷洋子 53×175cm

〈硯〉



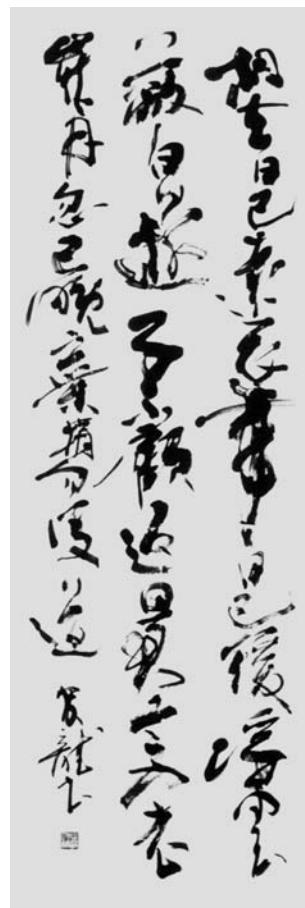
(公財) 常務理事・常任総務 大野祥雲 90×120cm

〈一氣呵成〉



114×89cm

〈古詩〉



172×60cm

常任総務 生田 翠龍

〈相貌〉



常任総務 石田 和子

〈孔による〉



常任総務 倉林 紅瑤

152×73cm

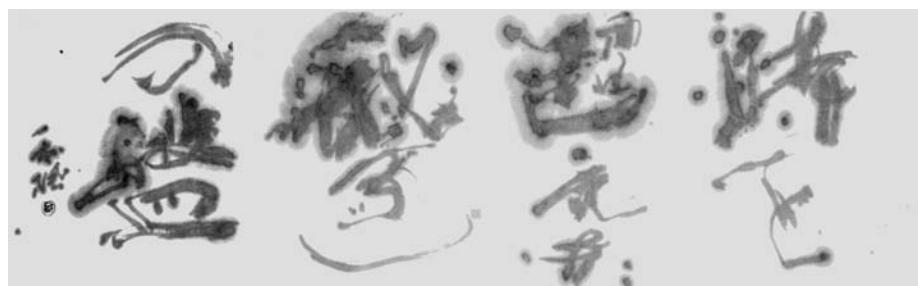
109×79cm

〈色即是空〉



常任総務 大隈晃弘 66×145cm

〈青磁盤〉



常任総務 白石和楓 51×167cm

〈光〉



常任総務
北村白琉

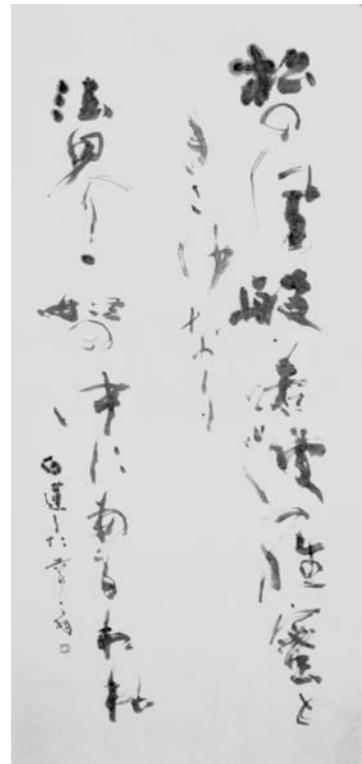
150×72cm

〈一瞬〉

常任総務
長井孝子



52×60cm



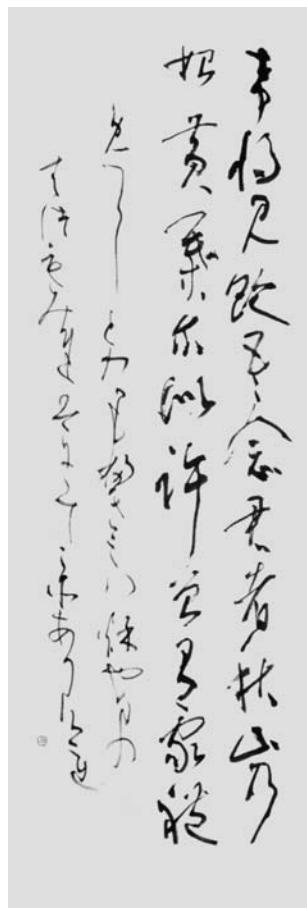
常任總務
佐久間幸扇

146×67cm



常任總務 木村英峰

176×55cm



常任總務 奥田瑞舟

180×60cm



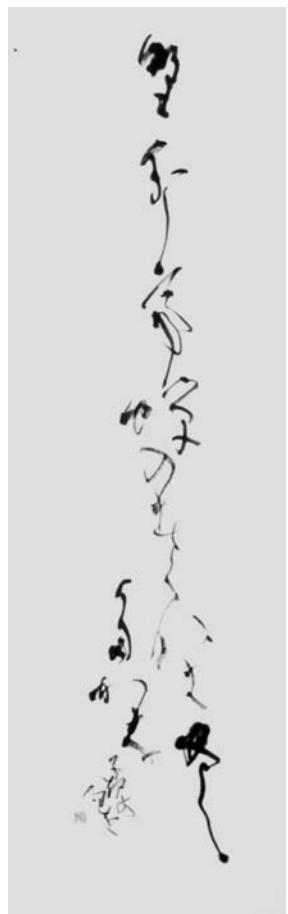
深見けん一句

常任総務 広瀬舟雲 70×146cm

〈諷誦文〉



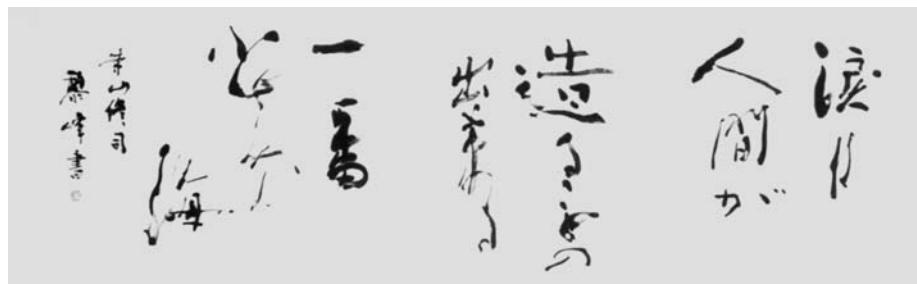
〈野分け〉



〈空〉



〈海〉



55×175cm

〈蔵



大山和歌子

119×89.5cm

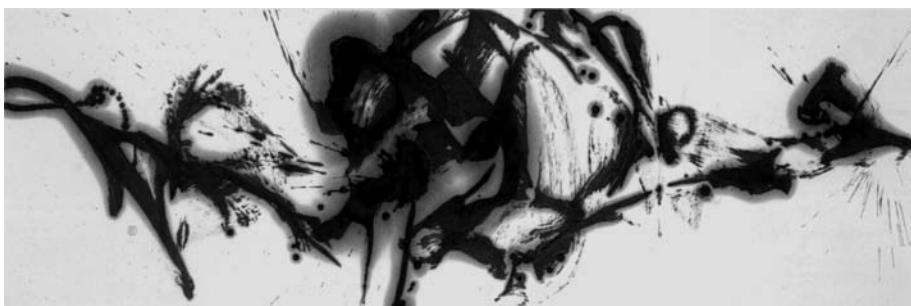
審査会員候補
秋季菊花賞

青の空



都丸みどり 53×175cm

花火



荒川空華 61×182cm

明



堀田白扇 91×121cm

秋季菊花賞

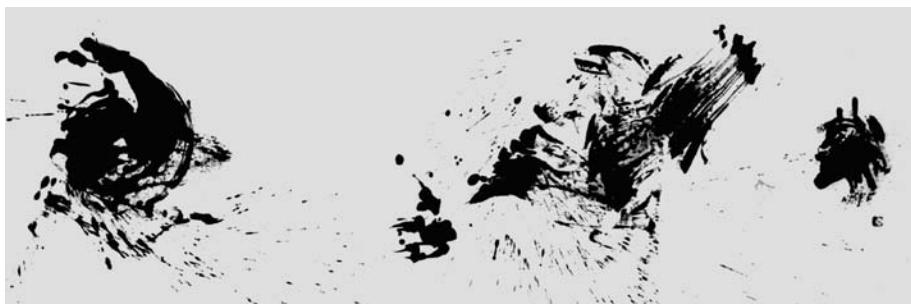
審査会員候補

再会



大町菜園 60×180cm

星空



大村直子 60×180cm

始平公造像記（北魏）②



(95%縮小)

□。是以眞顏□／＼於上齡。遺形敷／于下葉。暨于大

〈解説〉 この造像記は龍門の中では珍しい陽刻（文字の周りが彫られている）で、しかも書者（朱義章）と撰文者（孟達）の名が明記されている。発願者の比丘慧成は誠心を尽くして龍

門石窟寺を創建した高僧で、その由来を述べ、亡父の使持節・光祿大夫・洛州刺史、始平公を供養するために釈迦像一軀を造営した時のものである。

（編集部）

漢字研究部臨書課題

II（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみ也可)

(右衛門切
寂蓮)

②

128

特別研究部臨書課題

(半紙普通判 (料紙可)・縦長に使用)
 別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
 左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨

(押印のみも可)

(90%縮小)

<解説>

平安時代も後半になり鎌倉時代に近くなると、それまでの華やいだ麗しい貴族的なかなとは少々異質の、鎌倉的と言われるかなが表れる。この右衛門切も、そういう意味で新しい傾向のかなと言える。料紙は楮で、薄墨の枯野の中に書写する。濃墨の彈力ある線質は、太細の利いた繊細なリズムにて鮮やかに展開し艶めている。字形に特色があるため変わった印象を受けるが、線質の巧みなことは、この時代の他の古筆と比べて特に傑出している。

(編集部)

<よみ>

にがたけ

しげはる

希者類

いのちとてつゆをたのむにかたければ
多者されればハ

ものわびしらになくのべのむし

者介

かはたけ

かげのりのおほきみ
多者されればハ

希者類

本三

さよふけてなかばたけゆくひさかたの
佐那可者堂

月ふきかへせあきのやま風
万

月ふきかへせあきのやま風
万

習い方解説 (二)

小林琴水

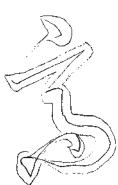
高下在心 (四字熟語新辞典)
(こうげ心に在り)

高くするのも、ひくくするのも
心ひとつである。

4字のバランスを考えながら、
変化をつけて書きましょう。



書体=自由



高下在心 よみ (こうげ心に在り)

習い方解説 (二)

種谷萬城

真金不鍛
(真金は鍛せず)

(李紳)

真金不鍛
(真金は鍛せず)

(李紳)

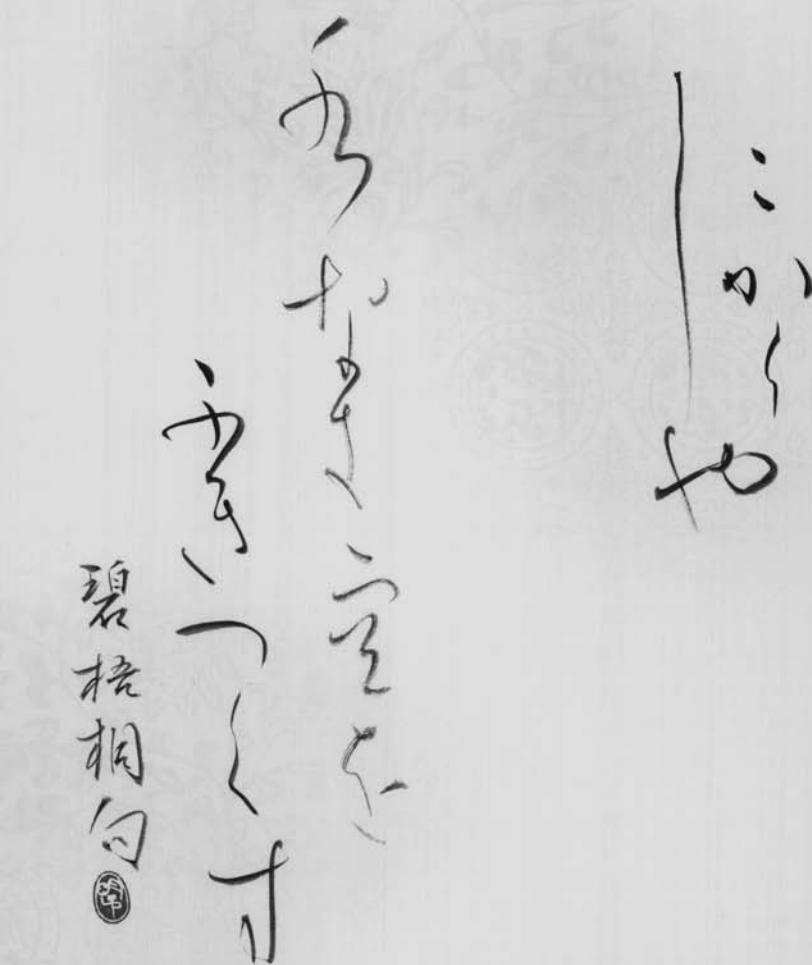
「真金不鍛」(真金は鍛せず)
真の黄金はメッキなどしない。眞の才能のある人は飾る必要がない。

今月は、北魏の龍門造像記の書風で倣書しました。洛陽の郊外にある龍門石窟は、北魏時代から開鑿された仏教遺跡です。洞窟13

52、仏像97300、その仏像に造像の由来等を刻し添えた造像記は3600を数えます。牛欄造像記、始平公造像記、賀蘭汗造像記など、北魏時代の造像記は、点画が角張り、刀意があり、迫力溢れ、豪放な魅力に富んだ書です。硬い毛の筆で、濃墨を用い、起筆を強く打ち込み、力強い送筆をし、気迫に溢れた書を書きましょう。適切な執筆法、腕法、姿勢と、何よりも気力の充実が大切です。

石井明子

木枯らしや水なき空を吹き尽す
(河東碧梧桐)



か・なで書く短歌と俳句の表現は、
本来、字数の差を越えた違いがあるものだと思います。31文字と17
文字が創る世界は異っているので、
読み込んで、内容に添う形を目指
したいのです。

短歌には古筆という、貴重な、
多くの手本がありますが、俳句にはその種のものがないので、より
自由な表現の可能性がある筈です。
自分らしい自由を求めながら、筆
がはずれないように進みましょう。
字数が少ないので量感を求めて、
大きめの筆を使ってみました。又、
読み易くするため、変体がな、連
綿線を少なくしました。

河東碧梧桐(1873—1933)
7)は期待された子規の門人で、
新傾向俳句運動を進めました。そ
のことも考慮に入れて、制作して
下さい。

よみ方 こが(か)らしや水なき(支)空をふきつく(久)す

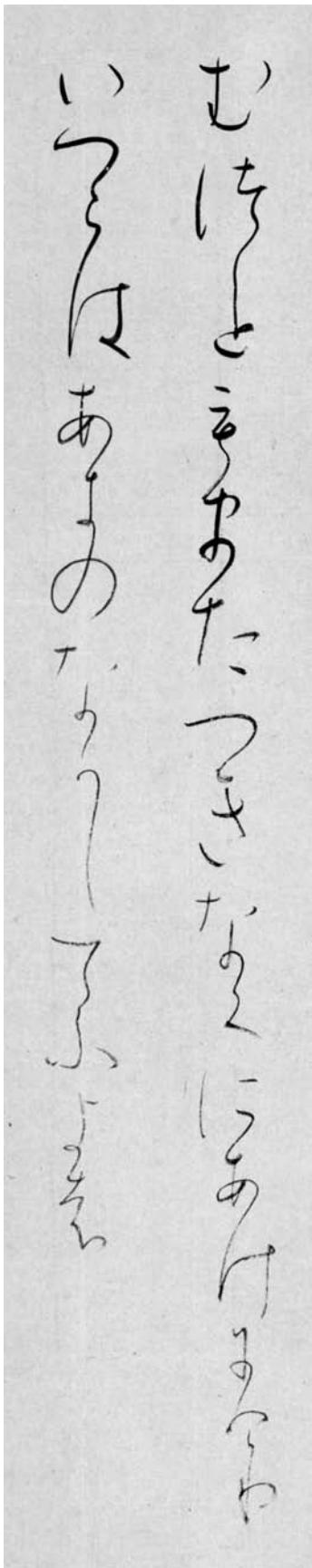
碧梧桐句

創作

かな規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



かな条幅規定【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村東舟選書

習い方解説 (二)

木 村 東 舟

冬枯れの黄なる草山ひとりゆく

うしろ姿を見むひとなし

(若山牧水)



よみ方
冬枯の黄なる草山ひとりゆく
うしろ姿を見むひとなし

よみ方
冬枯の黄なる草山ひとりゆく
うしろ姿を見むひとなし

創作

出品券
貼付位置

*よこ形式に限る
横形式はリズムの取り方が難しいです。1行書き終えて次の行に移る時に、筆に動けるようフットワークを良くしておきましょう。書き出しは墨量を控えめにし、行の長さを変化させるなどして、流動感ある作品にしたいのですね。

半田 藤 扇

月耀如晴雪 梅花似照星
可憐金鏡轉 庭上玉房馨

月耀如晴雪 梅花似照星
(月耀いて晴雪の如く 梅花照星に似たり 憐むべし金鏡轉じ 庭上玉房馨ばし)

書体=自由

百聞不如一見
洋文書

書体=自由

人から百回繰り返して聞くよりも、一度でいい実際わが目で見る方がはるかに正確である。皆さんよくご存知のことわざです。揮毫に当っては、点画に円味をもたせるよう配慮。字形はやや扁平とし、接筆をところどころさけ明るさを狙った。全体の流れの関係で落款を少し大きめに書いてみました。

習い方解説 (二)

大野祥雲

漢字条幅規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書

五言絶句を題材に、少しコンパクトな仕上がりを試みました。それには、11字・9字の2行仕立て、余白を出すパターンで線質に稽法の趣が表現できればと。この線質は、心のようすが窺われます。とても難しい筆づかいだと思います。ゆったりとしながら、どこかにピンと張りつめた心もちで書作してみては如何でしょうか。

唐 岩 碧 水

夏夜涼を追う

夜熱依然として午熱に同じ
門を開いて小立す月明の中

竹深く樹密山なり虫蟬鳴く处
時に微涼あり是れ風ならず

碧水書

猛暑の暑さは夜中でも昼間と変らない。月明りにさそわれ戸外に涼を求める
と竹藪や、うつそうと茂る木立の蔭
ですぐ虫の声にかすかに涼を覚える。

ペンは鉄筆ともいわれます。小筆の
運筆を連想しながら書いてみましょう。

※落款を必ず入れる。

(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

各部総評 木一派作品 NO. 641

No. 641

ペン字部 師範 佐藤 祥扇

文字結体筆力充実して広かり大きさがある。名前まで一貫したりズムで誠に充実した作品である。◎ベン字部総評 行書作が多く流れすぎて曲線の多い作品も見られた。点画は直線が基本で行書でも楷書の形を考えて運筆のこと。（蒼玄評）

「蛤のふたみにわかれ行秋ぞ
私は、れから二見が浦へ向かうが、
君たちとの別れは蛤の身が蓋
どう引き裂かれるようにつく、」
内容は重が言葉は軽々と
してくる。祥翁書圖

かな名幅部 五段 長谷川和子
手本をしつかり理解して運腕大きく明るい。墨色も美しく、用筆の確実さと相まって品格を感じる。
◎かな名幅部総評 概ね誤字も少なく伸びやかで佳。墨色が濃すぎる、太く大きすぎる等は不可。普段は名前のみでよい。
(洋子評)

卷之三

漢字条幅部 師範田畑 明琴
流暢な線で動きに淀みがない。余
白綺麗で、明るく魅力的な作品。

前衛書部 特選 星野 成美
上部の余白と直線の構成の妙。
左から右へ流れる滲みの太い線が
全体を引き締めている。

◎前衛書部總評 創意感じられる
作が多く見られた。落款印の大き
さ位置に配慮が欲しい。(蓮紅評)

秋の夜、月夜を歩いた
喜び

竹影亂侵壁

漢字部 師範 小閻 瑞華

傳和

かな部 師範 山村 炎秀
緻密な洞察力、知的分析力で、
参考手本をよく研究され、掌中に収
めたものを再現された力量は見事。
◎かな部總評　字が過大で、稍、
品性を欠く作散見するも、驚くほ
ど高レベルの作品群でした。更に
は情感深い制作を希望。（明子評）

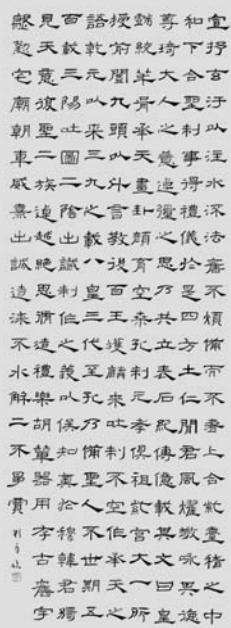
◎漢字・多幅部総評　横形式に不慣れで配置が不安定な作が見られた。草書作品で字形不正確なもの、着実な校字が必要です。（萬城評）

A vertical calligraphy piece featuring the characters '寒天' (Kantō) in large, expressive brushwork. To the left of the main characters is a smaller inscription '恋子一休' (Rei-ichi-shū), and to the right is another smaller inscription '雪蘭' (Seiran).

現代詩文書部 特選 石崎 甘露
中央の大字・左右の小字の見事なバランス、強韌な線、隙のない行間がすばらしい作。

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

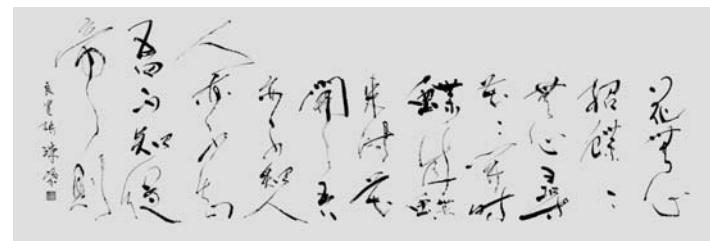


臨書 (英峰)

吉瀬彩雨 「礼器碑」

132×52cm

吉瀬彩雨臨



宍戸珠葉書

60×178cm

漢字
(玄窓)

宍戸珠葉

「良寛詩」

◆柔毫長鋒筆を巧みに操り、軽やかなリズムの作。濃墨の艶ある線が魅力的、やや渴筆が上すべりの感あり。(大雲評)

◆全体の構成に思い切った空間をとり筆の細やかな変化を上手に生かしている。墨の濃さが印象的。(倫子評)

◆壮大で運腕自在。飄々とした雰囲気が感じられる。息長く柔らかなタッチが魅力。若干線が弱いか。(龍雲評)

◆漢字書だが構成や雰囲気に詩文書を想起させて斬新。遊動する鋒先が騒がしい気もするが発想豊か。(洋子評)



部分拡大



松永香秋書

現代詩文書
(大雲)

松永香秋

「見付拓の詩」

◆丁寧に細やかに形臨に徹し、気の貫通に頭が下がります。時折細線に見せる弱々しさが残念です。(洋子評)

◆ゆったりとした雰囲気がこの小さな字に表現されていて、見ていて私の心を穏やかにしてくれる。(倫子評)

◆礼器碑の格調の高さをよく捉え、緊張感ある臨書。形を追うあまり線の厳しさ強さがやはり不足。(大雲評)

◆品格高く筆力安定し、まとまりのある臨書。もう少し切れ味のある線を増やすと生き生きとしたと思う。(龍雲評)

◆勢いのある運筆、そこから生まれた濃墨の魅力、かすれの美しさを表現され迫力ある作品となつた。(倫子評)

◆たっぷりと巾ある線が広がりを感じさせる。構成は平板だが率直な書きぶりを買う。さらに深味を。(大雲評)

◆大らかに伸びやかに、読める詩文書の王道とも言える作。リズムが少々単調、さらに一考をする。(龍雲評)

◆大らかに伸びやかに、読める詩文書の王道とも言える作。リズムが少々単調、さらに一考をする。(洋子評)

176×56cm

前衛書
(蓮紅)
大友紅蓉
「生命」

(蓮紅)

大友紅蓉



大友紅蓉書

180×60cm

◆黒色の濃さが紙面から浮き上る様な立体的な表現、筆の幅も充分に使いこなし太い細いのバランス良。

◆題名とは別に想像するのか、樂しい前衛書だが、生きている線に“生命”が重なる。伸縮する線の白が光る。
(洋子評)

◆二層紙の厚味を生かし、潤滑感のバランスがうまく調和した作。やや煩雜さを感じる。もう少し整理を。
(大雲評)

◆紙面から飛び出さんばかりの広がりと動きが感じられる。やまとまりのないところが余白を消した。
(龍雲評)



酒寄光子書

53×168cm

◆強く歯切れのよい線質で余白に響き明るい作品になった。墨の濃淡による変化がありリズム感がある。

◆肉厚の線が温かく、構成もバランスよく落着いている。やや速筆のため行によつては単調、一考を。

〈特選候補者〉

總出品点数
83点

創作の部(47点)	漢字	—	8点
篆刻	かな	—	5点
現代	漢字	—	20点
前衛	漢字	—	1点
「漢字」	西川藤象	36点	13点
（創作の部）	恵雅板橋雅邦	0点	点
「漢字」	書泉都丸みどり	83点	総出品点数
「かな」	玉松橋本紅霞		
「現代詩」	青蓮大町菜園		
「前衛」	加美小川暁雲		
游水荒川空華	白珠蒔苗由珠		
うる今関心華	連紅田村紅沙		
〔臨書の部〕	（臨書の部）		
「漢字」	大雲池田沙靜		
白珠英峰渡邊多佳	竹浪佐藤桂香		
大雲相内珠莉	江本興舟		

漢字研究部 (礼器碑)

選評 小 浜 大 明

今月のホープ作品



鶴田恵子

漢字研究部 特選 鶴田 恵子

礼器碑はやや細身で、波勢はくっきりとして爽晴で、品格高い作品といわれていますが、この碑の特徴を良く理解して書かれた様子が窺えます。線も明るく伸びやかでリズムが感じられます。

◎漢字研究部総評

良く研究して書かれた作品が多く目についた一方で、隸書の用筆とは全く異なった書き

方の作品も少なからずありました。逆入平出といい、横画の終筆は止めずに軽く右上方に牵引上げるように抜きますが、楷書の如く止めている作品も何点かありました。又、横画から縦画に移る時は、一度筆を離して改めて下方から突き上げるように書くのが隸書の基本ですが、楷書と同様の書き方をした作も多く見られました。尚一層の研究を希望します。



晶治菜貴彩雲
実子美夕子華開

炎信栄高恵み
つ
秀代子堂子え

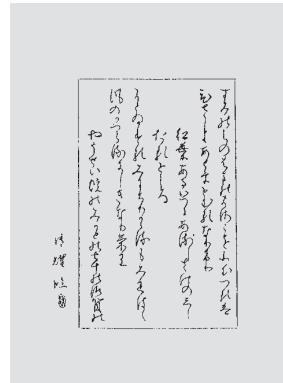
華幸澄綾蘭
瞳秀雲仙子花

愛禮翠萩桃美
華子玉香苑紺

か な 研 究 部
(石山切)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



耀清貝璣

平安後期以降のかな文字の書風をよく理解し、繊細な表現を試み、美しい作品に仕上げています。料紙による本格的な臨書作品も是非、制作して下さい。

○かな研究部総評

作品を臨書する前に、墨継ぎ、渴筆等の箇所をしっかりと確認する事を基本にして下さい。次に文字の連綿・行間の響き合いに注意しましょう。

かな研究部成績表

かな研究部成績表		評	かな研究部
蘭樹安上A遊 鼎原波泉I雲秀	紅硯蓮大遊蒼大前玉高千A秀 高玉澄有竜惹東石玉竜大 瑤水紅雲霞陽阪橋松崎葉I明 崎松春秋泉賛伯習松泉雲	前に、墨継ぎ、渴筆等の箇所をしつ を基本にして下さい。次に文字の 合いで注意しましょう。	美しい作品に仕上げて下さい。料 臨書作品も是非、制作して下さい。
川葛小大伊池安 崎野沢藤田部作 寺優惠久淑寿尚明 子美美江子古隆	須宮遊黒西込後別長根猪藤大酒小小深石後坂山松橋高磯貝 田澤佐柳澤山藤府谷津又村森井峰川堀川藤本丸本橋貝 香草紅竹彩美喜信千飛理昌喜惠加彩清洋良里真愛紅雅清 舟秋雅葉峰岬秋子峰龍扇子代子子香洗子泉美紀石麗泉纏	特選	特選 碩貝 清輝
高陵佳 會木作 勇介	八竹華上 玉竜あ木竹千暮洞は恵玉白書一立玉大幕澄竹 竜高竜広附英N 生扇仙泉 川泉か彌扇葉張書せ 川珠泉宮精松阪張春扇 泉崎泉島中峰H 湯山山谷森森本堀船平林濱長延野西都鶴千田田高高泉櫻酒吳熊国吉川 浅村口縣知本田吉江津山 田谷山中山丸田田中中橋橋井水田井 谷峰瀬田 裕 み 喜 恵炎雪令美悦龍明幸裕彩玉竹久文喜裕ど雅白耶美賢幸小龍龍知豊紫理彩温 子秀翠子子博香泉扇華華雪子美子人り裕香衣枝雲苑秋宝貞子美蘭佳雨子		

京仙松橋台村 I 京東明無華や宗菊高澄正秀高一澄生秀童桂や幸澄八正澄稻館清高幕、広ここ A 誠澄秀玉石筑八八八う水大入 S 橋實漢門祥ま苑月崎春華畠陵心春大水泉月ま扇春生華春毛山月崎張「島こ」だ I 和春明川習桜戸街生る海阪

阿熱青部海木 遷六吉吉山山茂宮松深東長丹西浪豊富土谷田高新篠椎齊斎小小北北川川加大梅生鶴字岩今犬伊市石石飯飯天本田田中崎口木崎浦澤田谷羽岡川田澤谷脇玉橋行田名藤藤山林村村本本藤石原方澤井崎井飼藤川渡川高泉羽川美理ま由内惠由佳木千川美由佳

春桃玉清翠枝 佑弘真鶴清桜律絢英玉佳敏和恵弘秋翠憲憲晴哲沙満美幸真美笙嘉欣惠南紫翠星虹美琴楠洋花道悦紫翠代幹輪子江子理子玉江子水明江月子子花玉子江翠子風子子枝子洋江子舟汀仙陽祥祥子舟麗子枝石子泉径子生子子

た四正硯昌澄や童樹翠楳奥大た大蘭汐正生彩福竹大秀童正青大澄玄高清高た、澄大青童澄彩や正 N 春岩誠晝 大千洞椿もか谷華水苑春ま泉原吟翠田阪か雲鼎風華大山扇雲水泉華峰阪春穹井月真か「春阪峰泉春 ま華 H 池沼和游」阪葉書翠く

猪佐牛牛坂齊齊後辯近小小小河亭小々木北岸川河河門加加鹿小小尾彌江梅梅宇崎岩金井伊伊伊伊石石石牛生池飯安安

芳高昌青己も春声澄墨千長大高有大長やた大東土秀正遊一青艸大た泉翠生大春郷た高大青安香』正誠生書 A 明弘干八
選蘭井苑峰未く汀香春宣葉月雲陵秋阪月まか阪向気畠華雲葦峰玄阪か会柳大阪汀州か阪陵峰波書『華和大游 I 濱舟葉雲
千葉